

普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design : CHIHARA Kazuhiko

2011.02 No.08

“普遍ニュースレター”は、
普遍教育センターの活動を中心に普遍教育・大学教育の動向に関する情報を
定期的に紹介していきます（年3回刊行予定）。

●教養展開科目WGで見えてきたこと

2009年度の後半に、コア科目WGに続いて立ちあげられ、約半年間で各種のデータを集め、それをもとに2010年7月に中間答申、9月に最終答申を提出しました。答申内容については、ホームページその他をご覧ください。ここでは主として答申の根拠となったデータの中身について、少し触れたいと思います。

集めたデータで特筆すべき事項は3点あります。

第一は、2007年度の河合塾調査による全国国立大学共通教育（千葉大では普遍教育）調査によれば、千葉大学の各学部の卒業要件単位数は全国でも最低レベルであることが挙げられます。

しかし、実際の学生たちの履修状況から言うと、これが第二点目ですが、卒業要件単位数による必要述べ受講者数の2倍近くの学生が教養展開科目を履修しており、とりわけ上級生に履修者が多く、ピラミッド型の履修形態になっていることが分かりました。これは教養展開科目の授業内容が上級生にも関心を呼ぶ内容になっており、卒業要件単位数で学生を縛ることの愚かしさを物語っています。千葉大学では卒業要件単位に縛られることなく、自由選択に基づく学習がある程度実現しており、全学出動体制の成果だと思えます。

第三点目は、教養展開科目の開講科目数の充実です。現在のところ、学部割り当てを行わなくても良いだけの開講科目数が十分に確保されており、学生の履修状況と合わせ、授業内容の充実を示すものとなっています。

これからも教養展開科目の充実に努めていきたいと思っています。今後ともなにとぞご協力をお願いいたします。

普遍教育センター 山内正平

普遍教育シンポジウムを開催しました

平成22年11月2日に、3名の講師をお招きして「幅広い学びの推進—理系学生のための文系科目と文系学生のための理系科目の開設に向けて—」と題するシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムの目的は、学生の履修が自身の専門領域に偏らずに、これまであまり学ぶ機会がなかった分野も積極的に学べるようにするには、どのようなカリキュラムを提供することができるのか、どのような教育方法上の工夫が必要なのかといったことについて、他大学の事例や、普遍教育の実践事例から考えることにありました。

基調講演者である濱口 哲先生（新潟大学副学長）からは、幅広い学びを目指して推進している「副専攻制度」と、順次性のある履修を目的に全授業科目につ

いて分野と水準をコードで示す「分野・水準表示法」を中心に、新潟大学における学士力養成への取り組みについてご講演いただきました。

普遍教育センター副センター長の山田 賢先生は、ご担当の教養展開科目「大学生のための世界史再入門」について、人類の歴史を1セメスターで教えるために、毎回の授業で取りあげるテーマ設定、Moodleによる予習のための資料提供、パワーポイントの効果的使用など、様々な教育方法の工夫についてご紹介いただきました。

理学研究科の音 賢一先生には、物理未履修の学生を対象に物理学集団が取り組んでいる「実験で体験する物理」について、実験の楽しさを体験することを目的に、パーソナルデスクラボという実験装置を使用して、クラスの学生全員が直接に実験課題に取り組むための様々な工夫についてお話をいただきました。



参加者は37名と少なかったのですが、新潟大学の先進的な取り組みはもちろんのこと、授業実践の報告は、

大変に好評でした。今後も、様々な形で、学内の先生方の授業の工夫を紹介できればと考えていますので、みなさまのご提案をお待ちしています。（前田早苗）

ました。懇談会後のアンケートでは、91.7%の参加学生が懇談会全体への満足を示しましたが、所要時間と時間配分についての満足度が60%前後であったことが課題となりました。また、質問に対する回答に対しても不十分とする記述意見もみられました。なお、普遍教育の現況への満足度は65.9%でした。普遍教育センターでは、懇談会での参加学生の意見や指摘を普遍教育の充実に活かしていきます。

なお、懇談会の概要とアンケート結果を普遍教育センターのホームページに掲載しますので、ご参照ください。（白川優治）

学生懇談会について

普遍教育センターでは、毎年、普遍教育についての学生懇談会を開催しています。2011年11月16日に総合校舎A号館201教室を会場に、各学部の1、2年生を中心とする43名の学生と普遍教育センターの専任教員及び各専門教員集団主任・副主任を中心とする29名の教員が、2時間にわたり意見交換を行い

普遍教育センターから

新年度に向けて、以下の行事等を開催する予定です。

- 3月31日 13:30～ ガイダンス担当教員説明会
- 4月6日 14:30～ 既修得単位認定予備審査
- 4月初旬 新任教員研修会
- 4月初旬 新入生向け普遍教育センターガイダンス

国際教育センターより

「二言語併用ゼミ」の開設

2011年度から教養展開科目の中に日本人学生と留学生が学び合うことを意図した「二言語併用ゼミ」が開設されることになりました。これは、本学における留学生教育の新たな柱となる授業として留学生戦略企画室において構想されたもので、言語能力、文化的背景、予備知識の異なる学生が、協働して何らかの課題を達成することにより、学習内容や自分自身に対する新しい視点、より深い気づきを得ることを目的としています。

従来、こうした授業は、教養展開科目（国際性を高める）として日本語のみまたは英語のみを用いて行われてきましたが、「二言語併用ゼミ」では、共通の言語として日本語と英語を併用します。日本語力の低い留学生にとって日本語を使って学ぶ貴重な経験になると同時に、英語運用能力の高い短期留学生の積極的な受講を促すことで、一般の学部生が英語を使って学ぶ機会にもなると期待されます。

国際教育センターが中心となって企画を進め、初年度はこの試みに賛同して下さる先生方によって、「社会システムとコミュニケーション」・「デザイン・プロジェクト・ワーク」・「国際言語文化コミュニケーション論」・「異文化交流演習」の4科目が開講されることになっています。

（国際教育センター 吉野 文）

❧ 普遍ニュースレター No.8 2011年2月発行 ❧

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 Tel：043-290-3609（普遍教育課）

E-mail: fuhén-info@office.chiba-u.jp URL: http://fkc.chiba-u.jp/